

科目名	経済学概論Ⅰ(国際経済を含む)		担当教員	宮川 典之	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2SSE204
期待される学修成果	教科教育 学校と社会				
アクティブラーニングの要素	該当なし				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	現代経済学の基礎はミクロ経済学とマクロ経済学に大別されます。受講生は市場経済がどのように機能しているかについての基本的理解ができます。最終的には、ミクロの視点とマクロの視点を身につけることができ、実態経済を総合的に捉える眼を養うことが可能になります。				
授業の概要	現代社会について経済はどのように機能しているかについて、経済学の入門レベルから入ります。とくにミクロ経済学の視角を多種多様な経済主体の眼を通して考えます。典型的には与えられた予算制約の下で効用を最大化しようとする合理的な消費者の視点、および与えられた技術制約の下で利潤を最大化しようとする合理的な企業者の視点、および市場経済だけでは解決できない部分をどのようにあつかうのかについての合理的な政府の視点などを順次考察します。なお授業の導入部において、内外の経済に関する時事問題について、および話題を集めている書籍について紹介と解説をするように心がけます。				

授業計画	
第1回	オリエンテーション（経済学を学ぶ心構え）
第2回	生産と消費と資源
第3回	市場と資源配分
第4回	需要と供給の基本的理解
第5回	需要と価格
第6回	供給と価格 (財務省岐阜事務所協賛による特別授業への代替あり)
第7回	需要と供給との均衡 (財務省岐阜事務所協賛による特別授業への代替あり)
第8回	資源配分の決定
第9回	所得分配の決定
第10回	市場経済と政府
第11回	資源配分と政府
第12回	所得再分配と政府
第13回	マクロ経済学の基本的理解
第14回	ミクロ経済学とマクロ経済学との総合
第15回	まとめ

事前学修	2時間	講義予定の事項について教科書の該当する箇所に事前に眼をとっておきましょう。
事後学修	2時間	授業で学習したポイントについて、章末の練習問題にトライするようにしましょう。
フィードバックの方法	質疑応答用紙に気になることを記述してもらい、適宜回答します。 メールのやり取りを通して質疑応答も可能です。	

成績評価方法	割合(%)	評価基準等
定期試験	80%	経済学の基本理解
上記以外の試験・平常点評価	20%	小テストの実施

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
経済学への招待	岩田規久男	新生社	9784883841127	なし
参考資料				

科目名	経済学概論Ⅱ		担当教員	宮川 典之	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2SSE405
期待される学修成果	教科教育 学校と社会				
アクティブ・ラーニングの要素	該当なし				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	一次産品問題は私たちの生活に直接間接にかかわっています。この問題を学習するうえで、そこが着眼点となります。歴史的に世界商品となった一次産品のグローバル・バリュー・チェーンの意味をしっかりと理解することができます。この授業で学んだことを小中学校の社会科教育に活かせるようになります。				
授業の概要	「経済学概論Ⅰ」で学ぶ経済学の基礎をもとに、この授業はひとつの応用問題として位置づけられます。現代社会において供給される財はそれぞれ固有のバリュー・チェーンをもっています。国際社会で取引される一次産品をみると、歴史構造的に規定された側面を有していることがわかります。それぞれの一次産品がグローバル・バリュー・チェーンの一環を形成していることとなります。このところそのような世界商品となった一次産品を歴史的にあつかった文献が多数刊行されています。授業の導入部において、話題を集めているそのような書籍について紹介と解説をするように心がけます。				

授業計画	
第1回	オリエンテーション（一次産品問題の紹介）
第2回	現代社会における一次産品問題
第3回	一次産品と工業製品との交易条件
第4回	一次産品問題とオイルショック
第5回	歴史の中の一次産品
第6回	英国「大不況」期の一次産品
第7回	金本位制と一次産品
第8回	歴史構造としての一次産品問題
第9回	大航海時代の一次産品
第10回	オランダの興隆と一次産品
第11回	東インド会社と一次産品
第12回	世界システム論と一次産品
第13回	「資源の呪い」について
第14回	「フェアトレード」について
第15回	まとめ

事前学修	2時間	講義予定の事項について教科書の該当する箇所に予め眼をとっておきましょう。
事後学修	2時間	授業で学習したポイントについて、しっかり復習をして学修内容を整理しておくようにしましょう。
フィードバックの方法	質疑応答用紙に気になるところを記述してもらい、適宜回答します。 メールのやりとりを通して質疑応答も可能です。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	80%	一次産品問題の基本理解
上記以外の試験・平常点評価	20%	小テストの実施
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
一次産品問題を考える	宮川 典之	文真堂	9784830946547	なし
参考資料				